

そなえあれば
うれいなし

西淀防災 Times

Vol. 2 令和4年6月27日発行

先日の火災避難訓練では、ご協力ありがとうございました。『西淀防災 Times 第2号』は、事後アンケートで意見の多かった「実際に煙が発生した場合の対応」を取り上げて、お伝えしたいと思います。その他のアンケート内容は6月の職員会議資料に挙げていますので、お時間があるときにご覧ください。

○どうして煙が危険なの？

火災で亡くなる方の原因は、逃げ遅れるよりも有害な煙を吸ってしまう方が多いことは知っていますか？不完全燃焼によって発生した一酸化炭素が体内に入って呼吸困難を引き起こしてしまいます。そのため、火災が発生した場合は煙からいかに避けて避難するかが大切になります。では、煙の速度はどうなっているのでしょうか？

<煙の速度>

発生した煙は熱によって空気より軽くなって上昇し、天井などにつきあたると横方向に広がっていきます。そのため、炎が広がるスピードよりも煙のスピードは速くなります。煙の速さは水平方向(平らな道)で毎秒 0.5~1mと、人が歩く速さ(毎秒約1~1.3m)よりもゆっくりです。しかし、垂直方向(階段の移動など)になると毎秒3~5mと、歩く速さの2倍以上の速度で煙が広がります。このことから、煙に巻き込まれないように迅速な避難が必要です。『仙台市 火災から命を守るために-煙のこわさ-』に煙の速度の実験が載っているの、よろしければご覧ください。



○煙が発生した時の避難はどうするの？

①可能な限り水平避難する。

先程も述べましたが、煙が広がる速度は横方向だとゆっくりです。可能な限り横方向へ避難しましょう。

②タオルやハンカチを口に当てて、直接煙を吸わないようにする。

煙を吸い込まないためにタオル等で口を覆いましょう。持っていない場合は服の袖を口に当てて避難しましょう。

③非常口誘導灯を確認して落ち着いて避難する。

火災が発生した場合、停電や煙で何も見えないことがあります。しかし、非常口誘導灯は停電時でも点灯するようになっています。誘導灯を確認しながら、できるだけ低い姿勢で避難しましょう。

④煙が充満した階段は使用しない。

煙が充満した階段は、熱や有毒ガスでとても危険な場所になっています。煙で充満していない階段を使用しましょう。※階段では1人ずつ子どもとバギーをおろすことになります。

⑤防火扉を活用する。

防火扉には遮炎性能があり、火災発生時における避難経路の確保のために、火の広がりを食い止める働きがあります。本校にも設置しています。裏面に非常口と防火扉を印で示した校内マップを載せていますので、時間があるときに確認しておくとも良いかもしれませんね。※防火扉は○、非常口は★、非常口誘導灯は▲をつけています。

今回は、避難方法の一部しか紹介していませんが、他にも方法があるので一度調べてみてください。